

令和7年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

【令和6年度事業対象・ダイジェスト版】



府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 府中市教育委員会における点検・評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

点検・評価を実施することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

令和6年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1) 教育委員会における点検・評価

事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2) 学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、元府中市教育委員会教育委員 和知 啓子氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育長及び4人の教育委員をもって組織することとされており、地方公共団体の長が、議会の同意を得て、任命する。本市における構成は、次のとおりです。

令和7年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期	
教 育 長	荻 野 雅 裕	令和6年10月3日～ 令和9年10月2日	2期目
教育長職務代理	高 橋 良 昌	令和6年12月19日～ 令和10年12月18日	3期目
委 員	和 知 啓 子	令和3年10月1日～ 令和7年9月30日	2期目
委 員	藤 井 美 砂 緒	令和5年7月3日～ 令和9年7月2日	2期目
委 員	森 山 直 洋	令和4年12月19日～ 令和8年12月18日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など、令和6年度は14回の教育委員会会議を開催し、35議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教育政策課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
地産地消の取組	現状維持	現状維持	
歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備	現状維持	現状維持	
地域の教育力の向上	事業改善	事業改善	
備後国府史跡保存・活用事業	現状維持	現状維持	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
学校内軽食ブース設置等学びの環境整備	事業改善	事業改善	
特別支援教育・特別支援教育支援員の充実	現状維持	現状維持	
コミュニティ・スクールの推進	事業改善	事業改善	
小中一貫教育	現状維持	現状維持	
GIGA スクールネットワーク推進	現状維持	現状維持	
「ことば探究科」推進展開事業	事業改善	事業改善	
「未来を拓く！」府中市学力向上事業	事業改善	事業改善	
府中市子供の学び応援基金	事業改善	事業改善	
放課後ラーニング・サポート事業	現状維持	現状維持	

iii 外部有識者による評価

令和7年度は、新型コロナウイルス感染症もインフルエンザと同じ扱いになって一見コロナ渦前と変わらない状況が戻ってきたように思いますが如何でしょうか？

確かに教育現場では ICT を活用した取組によって教育環境は大きく変わって学びの輪は広がったと思います。

その反面コロナ渦で友だちや大人たちとも自由にコミュニケーションとれなかった子どもの環境はどうでしょうか？

今一度原点に立ち返り団体行動をとることの意味、本来の自由の意味、自分はどう生きたいかの答えを教師も親も大人も子どもも共に語り合い学びあうことが、豊かな教育環境の発展に繋がるのではないかと私は考えます。

1 学校教育の充実

府中市の教育は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを主な教育の柱として、GIGA スクールネットワークの推進、「ことば探究科」、放課後ラーニング・サポート（らんさぼ）の設置など多様な教育施策を展開して新しいことにもチャレンジしてこられました。

それなりの成果も上がり次のステップを考えられていることと思います。

コミュニティ・スクールもコロナ以降変わってきたのではないのでしょうか？

特に、学校における指導方法や保護者との連携、コミュニティ・スクールや公民館や図書館など人と人との直接のかかわりが持ちにくくなった為に、コロナが終息した今も人間関係が上手くいかないのではないかと心配しています。

子どもたちも、友だちとの距離感がわからない為に誤解を生んだり話すことが苦手になったりしているのではないかと思います。

今こそコミュニティ・スクールの原点に立ち返り、学校と保護者と地域が上手く連携して子どもたちがいろんな体験を通して自分のやりたいことを見つけられるようなワクワクするようなものに成れば良いのにと 생각합니다。

その為には仕掛ける方も工夫が必要です。自分がワクワクしないものは伝わりません。まずは、自分たちが楽しむことから始めてはいかがでしょうか。

GIGA スクールネットワークの推進については、全ての子どもたちにタブレットが配備され、日々の授業などの活用が当たり前になってきたと思います。その中でのメリット、デメリットも見えてきたのではないのでしょうか。全て AI に頼ると同じ答えしか出ない、深堀をしていけば視野が広がっていく面白さを伝えていけたら良いのではと思います。

「ことば探究科」の授業はとても興味のある授業だと思います。全ての学習基盤となることばの力を引き続き、子どもたちがしっかり身につけて自己表現できるよう、さらなる研修と内容の充実に向けた取組を期待します。

「放課後ラーニング・サポート」も児童が選んで参加でき新しい学びの場所として校内に開設されたことは素晴らしい取組だと思います。

この取組がもっと充実して発展していくためには、コミュニティ・スクールとの連携も1つの方法だと思います。

2 生涯学習の推進

生涯学習とは、家庭教育や学校教育、社会教育、個人の自学自習など、人々が生涯にわたって取り組むことと文部科学省では定義されています。

府中市では、まだ公民館活動を含む趣味的活動やスポーツや文化活動など年代や所属で区分されていると感じられます。

これから、指導者の高齢化や子どもの少子化問題と課題が増えていく中で、場所も公民館だけでなく学校にも出前講座や一般公開などもっと自由に人が流れ

やすい取組がもっと充実してくることを期待します。

探せばもっともっと地域住民や企業など人材がいっぱいおられると思います。ICTの活用により人材バンクがもっと充実すれば、お願いしたい人、指導できる人のマッチングがスムーズに出来るようになるのではと期待します。

3 その他

学校教育と社会教育の連携は、学校（カリキュラム教育）と地域（社会教育施設、住民、団体など）が協力し、施設や人材、知恵を共有しながら、子どもたちの人間性・社会性・コミュニケーション能力を育む「開かれた学校」を目指す取組です。具体的には、地域住民が授業に参加したり、学校施設を地域が活用したりする「学社連携・融合」が行われ、子どもの学びを豊かにし、地域全体の教育力を高め、「学びの循環」を生みだすことが期待されます。

IV まとめ

令和6年度の評価については、第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な13事業について点検・評価を行った。課題も見られるため、状況変化を踏まえた業務の改善が必要である。

13事業のうち、現状維持が7事業、事業改善が6事業となった。

事業改善を進めていく事業としては、人生100年時代の新たな学びを生み出す仕組みをつくる生涯学習大学（仮称）構想の検討、学校教育においては、児童生徒の主体的な取組の拡充と学校や校種の枠を超えた教員の連携促進、働き方改革などの視点が挙げられる。

現状維持とした事業においても、方向性は維持しつつ、課題を踏まえた改善は、各事業とも必要である。

また、全体を通して、市民へのアピールなど、発信力が弱いことが課題として挙げられる。

外部有識者からは、学校・保護者・児童生徒間の思いの共有、わくわくするような体験の充実、幅広い世代の効果的な学びの場の充実などに示唆をいただいた。

教育委員会としては、子どもたちが自律し、変化の激しい社会でたくましく生き抜く力を育成するため、また、幅広い年代の市民に新たな学びを広げるため、点検・評価を通して浮かび上がった様々な課題に対応した取組を進めていく。